



新人戦の報告

11月29日(日)予選リーグ最終戦は白熱!
VS ACエボルティーボ～成長につながる勝利～

予選最後の相手はU-15 リーグでも苦戦してきた AC エボルティーボ。力強いプレーをしてくるチームです。前日の試合でエボルティーボがFCみやぎに勝利した内容も伝えましたが、選手はここまでの戦いで手ごたえを感じ、自信もあつたかもしれません。

選手は引き締まった良い表情をしていました。何かやってくれそうな期待感を感じました。この一戦に勝てる思いも感じました。アバンの戦い方はパスでつないでくるボールを追い回さず、追いながらもコート中央に誘い込んで勝負。パス精度の高いチームなので、大きく蹴られたボールに合わせにくる選手を誰に対応させるか、逆に選手の足元を狙ったパスはしっかり狙って奪う、狙った結果こぼれたボールも拾い攻撃のスタートにするというものでした。

開始間もなく、チームは勢いにのって先制。怪我からスピード復帰した片岡丈くん(中1)が右サイドを力強く、そして鋭く切り裂くようなドリブル突破からロングシュート『打つ!』という一心に振りぬかれたボールはゴールー閃! 突き刺さり劇的なゴール。怪我をした選手がより強くなって戻るのチームの願いです。焦る気持ちをコントロールすることは大変です。でも自主的に体幹トレーニングに励む彼の姿を見ていた選手たちが待ち望んだ復帰戦、見事にゴールを決めてくれたのでチームの勢いは更に増しました。試合終盤、選手は体力で上回る相手の攻撃を防ぎ、ボールを弾き返しながらくも1点差で勝利。とても厳しい試合だったのでサッカーをしてきて初めて足が痠痛したという選手もいました。

予選リーグは4位～勝ちきれなかった試合を反省～
順位トーナメント 12月6日(日)～12月13日(日)

アバンは9～11位トーナメント。初戦は、YMCA。試合は選手たちもスタートの悪さを感じたまま前半終了、ハーフタイムにやるべきことを確認。後半は前半より内容が少し修正され、勝利できました。12月12日(土)は仙台中田。チームが目指すサッカーで勝負しようと試合に臨みました。結果は7-0で勝利し、雰囲気よく翌日13日の9位決定戦へ。

県9位を決めた試合は1ベンジ戦!!

VS DUOパーク～勝利と共に課題を感じた～

12月13日のDUOパーク戦。予選ではチーム力を見せられながら一点差で惜敗。DUOパークは試合の流れを変える力のある強いチーム。でも、選手の士気は高く挑戦できるチャンスを得たことが大会の順位以上に大きかったです。試合はアバンのペースもありながら、相手の試合展開の上手さが目立ち、勝ちきることができずPK戦。ゴールキーパーの甲田亜佑斗くん(中2)がシュートを2本も止める大活躍によって勝利できました。県9位という結果ですが、チームはまだ個人に頼りがちで1度パスが足元に収まると選手同士の連携が終わる状況にあります。チームは1人の力にただ頼ったサッカーではなく、一人一人の特徴も見られるサッカーをしていこうとしています。これからが本当のチームづくりです。チームはもっともっとサッカーを見つめていかなければなりません。選手それぞれがチームにもっと力を与えていってくれることを楽しみにしています。皆さん、これからもジュニアユース選手たちへの応援よろしくお願いします。

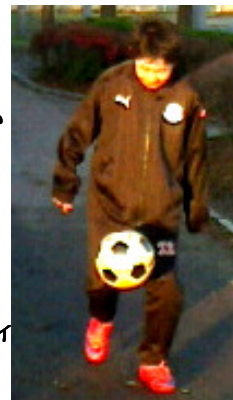


活動報告

11月28日(土) 中田中央公園。初めての早朝練習。眠そうな選手もいましたが、気持ちの良い朝でした。全員で朝陽を見ながら次の日に控えた勝負の一戦に向け調整を兼ねたトレーニング。朝起きて間もなく身体の状態を知るのも大事です。トレーニングの始まりはその場で名をつけた『目覚めのランニング』です。20分間じっくり走った後グラウンド外周をリフティングで1周。休憩できる4箇所エリアをつくり、そのエリア手前でボールを落としたら1つ前のエリアに戻るというルール。誰よりも速くゴールしたのは、表邊大夢くん(中2)。落としたのは2回。しかし、更に記録を更新したのは佐藤輝くん。落としたのはゴール直前の1回、あと少しで完全制覇でした。

その後は、グループでリフティング。コミュニケーションをとりながら、記録の上位グループも決めて楽しく活動してからゲーム形式のトレーニング、体幹トレーニング、外周1周の目安タイムからマイナス10秒でゴールする400メートル走。中学生なら簡単に走れそうですが、数回走るのはけっこう大変です。

トレーニング後の全員の顔はとても良い表情でした。その日のことが書かれたある選手のサッカーノートを紹介します。



佐藤 輝くん



今日の練習では、本当に心の底から『サッカーの楽しさ』や『サッカーができる幸せ』を感じました。怪我をする前は普段何気なくしていたサッカーが、できなくなるとこんなに辛いということも分かりました。明日のエボルティーボ戦では決して試合に出られなくても仲間の勝利を願ひ続けます。

羽淵 輝貴くん (中学1年生)



ジュニアユース練習会



12月20日(日)名取十三塚公園、天然芝グラウンドで3回目となる2016年ジュニアユース練習会を実施しました。1回目の練習会から15名の選手が参加してくれました。参加してくれてありがとうございました。一緒に練習した中学生たちもレベルの高さを感じていました。小学生たちも思い切ったボールにチャレンジしたり、ドリブルしてみたりナイスチャレンジでした。今後も練習会と説明会を随時、実施していきます。1月にもアバン室内練習場で実施します。日程や時間などについてはクラブホームページでもすでにお知らせしています。参加希望の際は、お申し込みの方法にしたがって申し込んでみてください。興味からで構いません、時間の可能なかぎり、是非参加してみてください。たくさんの選手の参加を待っています。





サッカーノートは成長ノート

ある選手を紹介します。花山真大くん(中 1) 彼のノートと活動を気にかけていました。いつかもっと良いサッカーノートになるだろうと見守ってきました。文字数が多ければ良いものでもない、少ないながらも問題と向き合っている良いノートもある。問題は書き方、文字そのものに書いている時の気持ち、集中力、取り組みへの姿勢が出てしまっていました。技術的にも成長してきているからこそサッカーノートに向き合ってほしいと話しかけました。以下は彼のノートの成長記録です。サッカーノートは選手にとって、ただのメモでしょうか？真大くんのノートは文字数が増えただけでしょうか？ただきれいに書けば良いのでしょうか？彼のノートに起こした工夫、姿勢を感じました。真大くんの挑戦が始まりました。

●これまでのサッカーノートはこんな感じでした。

※書き換えなくありのまま記載しています。

●〔良かったところ〕

ゲームの時に守備を厳しくいけた。もっと厳しくいけるようにしたい。

●〔悪かったところ〕

走りへの積極的な姿勢が足りていなかった。積極的に取り組みたい。リフティングの精度がなかった。こういうのは日々の積みかさねなので改善していきたい。

●〔次への修正〕

球際を強くする、走りへの積極性、リフティングの精度

●〔振り返り〕

メンタル的な部分が大きいので、メンタルを強くする。

特に内容が悪いわけでもありません。ただ、この内容を理解するために文字の質にも問題がありました。

●改善後のサッカーノートです！どうですか？

工夫や丁寧さは大事ですね(文字も真大くんなりに丁寧に書かれていて良いものとなりました)

●〔良かったところ〕

逆サイドで急がずしっかり落ち着いて出来た。でも、逆サイドへのパスも選択肢に入れられるように状況判断をしっかりしたい。1対1の練習では、相手を抜くことを考えることが出来てよかった。右足のイン・アウトのエラシコのアプローチができ、前より右に抜く精度が上がったので良かった。アイデアをこれからの練習でもやっていきたい。

●〔悪かったところ〕

ドリブルドリブルの緩急がなく、フィジカルに頼っていた。今日に限ったことじゃないのでこれから改善していきたい。パスを出した後の動き出しがなかった。自分が動き出したところにパスを出してもらえよう動き出しをすることによってボールへの関わりが増えると。そのために、ディフェンスの位置とそのプレイヤーの特徴を覚えていって上手く動き出せるようにしたい。ディフェンスでの声かけが出来ていなかった。パスコースを限定させる方向。OK の声などが足りなかった。声は相手にイメージなどを伝える大事なもののなので、声を上手く使って自分も成長していきたい。

●〔次へ向けて〕

「心」・・・周りを見て状況判断をして、心を落ち着かせる。発想力をプレーに出していく。

「技」・・・ドリブルに緩急をつけて相手をぬく。パスを出した後にもパスコースに入れることを増やして、その質も高めていきたい。

「体」・・・フィジカルに頼らずテクニックで攻めていく。

●〔振り返り〕

相手への対人の練習などは本番でも絶対生まれるから、パスに逃げずチャレンジしてドリブルの緩急をイメージしてぬけるようにしたい。全体的に状況判断が出来ていなかった。

ドリブル研究所

アバンツァーレの選手といえば、『ドリブル』のイメージがあります。現在の選手たちもドリブル技術を持つ選手が多いです。いろいろなテクニック、独特の動き、ボールの持ち方の選手が見られます。2年生選手のほとんどは、ジュニアSC時代にドリブルテクニックに磨きをかけました。『ボールを速く動かす』『ボールを相手の足元より遠いところに持つ』『自分のヘソの下より後ろに隠すようにボールを持つ』などに取り組みました。一方、1年生はそれぞれのチーム活動やアバンのテクニカルスクール出身の選手が多く、ドリブル技術を磨いてきました。それだけに、試合会場や遠征先で選手のドリブルについて質問を受ける時があります。『アバンの選手は独特のボールの持ち方をしますね、どんなトレーニングをしているんですか？』という質問に答えると『確かにそんな持ち方をする時がありますね』といった感じです。

確かに選手たちは独特なドリブルをしていると思います。試合の流れの中でジュニア時代に練習した技術が際立つ時もあります。ドリブルが身についているな、極めたな、上手くなったなと嬉しく思うのとは逆に個性としては？と考える部分もあります。『本当に凄みを感じる選手』の多くが、その選手にしかない感覚やアイデアに溢れています。見ていてワクワクします。そんなドリブルを試合の中でやっていこうということから、自分のドリブルと向き合う、磨きあげる『ドリブル研究所』の時間をチーム練習に取り入れました。

ドリブルは面白い。例えば、ドリブルで相手にしかけ始める時のボールの持ち方。サッカー経験者であれば『シザースフェイント(またぎフェイント)』といえど？』と聞いてやってみせてもらおうと、だいたいの選手、経験者は似たようなボールの動かし方からフェイントに入ろうとします。きっとジュニア時代から見て真似してきたからかもしれません。正直、コーチもそうです。カッコいいなと真似してました。でも誰もが同じ使い方をしないで、少しだけボールの持ち方や動かし方、タイミングを変える一工夫を加えてみる、スピードやパワーなどもともと持った能力を最大限上手に使うことでその選手だけのドリブルになる。基礎は本当に大事です。ただ、

基礎を守るだけでなく、当たり前になっていた枠からはみ出してみる。悪いことではないと思います。逆にはみ出てミスもしてみても修整する能力も必要です。今後もしも取り組んでいきます。ドリブルを磨き続けていきましょう。



『リフティング研究部』

「コーチたちを驚かすスゴ技！待ってます！

選手同士でのオリジナル感たっぷりのスゴ技でもOKです！各会場の担当コーチが見せてくれた技に何か加えてオリジナル技にしてもOKです！「コーチ、あんなことやってたなあ、これを加えてみたら面白いかも！」そんな気軽な発想から大技が生まれたりする。そんな瞬間があるからサッカーは楽しいですね。コーチの前で見事成功すればクリアです！ぜひ、挑戦してみてください。

「コーチから何かプレゼント」

選手が出してくれた課題は、直接聞くか実際にやっている動画をホームページで見てください。アバン公式ホームページの「What 'new」にプレー動画をアップしています。見てみると面白いですよ。

